

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

コミュニケーションの回復

ブロックアッドバイザー 川嶋直行



「五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。……炎のような分かれた舌が現れて、ひとりひとりのの上にとどまった。すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」（使徒の働き二章1〜4節）

聖霊降臨記念日を迎えます。私が仕えている教会では、講壇掛けも花もペンテコステ・カラの赤となります。ある年、お花係の姉が「グロリオサ」通称「炎のユリ」を講壇に飾ってくださり感動しました。まさに「炎のような分かれた舌」を髣髴とさせる花です。ある教会では、ペンテコステに赤い薔薇の花びらを会衆の上にまくそうです。

聖霊降臨記念日に確認すべき、大事な意義の一つは、「コミュニケーションの回復」ということです。コミュニケーションは、日本語に訳し辛い言葉ですが、一般に「意思の疎通」という意味になると思います。一人ひとりの上に、聖霊が臨まれるとき「言葉」によるコミュニケーションの回復が与えられるのです。

ヤコブは、「舌を制御することは、だれにもできません。それは少しもじっとしていい悪であり、死の毒に満ちています。」（ヤコブ三・8）と述べています。私達は「言葉による失敗」をしやすすいものです。言わなくてもよいことを言っ、人を傷つけてしまったり、人間関係を拗らせてしまうようなことがあるのではないのでしょうか。

私たちの口から出る言葉には、御霊による制御・コ

ントロールが必要です。ペンテコステの日に、聖霊に満たされた弟子たちは、御霊が話させてくださるとおりに話し出しました。「他国の言葉で」とは、「相手がその内容を理解できる言葉で」と言う意味だと思えます。一方通行ではなく、双方向の意思の疎通が可能となったのです。

私たちの口から出る言葉は、相手に届いているでしょうか。一方的に、自分の思いの丈をぶちまけて終わってしまったのではないのでしょうか。たとえ正論であっても、その思いが相手に届かなければ、コミュニケーションは成立しません。夫婦の間に、親子の間に、教会の間に、教団の間に、聖霊によるコミュニケーションの回復が必要とされていると思えます。

二千年前、弟子たちはひとつところに集まって、約束の聖霊を待ち望んでいました。共に集まり祈っていたとき、ひとりひとりの上に聖霊がどどまり、弟子たちの心に、神の愛の炎が点じられました。聖霊による愛の炎は、罪や恐れを焼き尽くし、大胆に「福音」を語る力を与えて下さいました。

現代に生きる私達クリスチャンにも、ペンテコステの恵みが必要ではないかと思えます。様々な「意見の違い」を超えて、私たちを主にあって一つとなし、コミュニケーションの回復を与えてくれる聖霊の力を祈り求めたいと思います。もう一度、皆がへりくだって主の前に出て、聖霊の満たしを祈り求めましょう。ペンテコステの恵みを待ち望みます。

コミュニケーションの回復……川嶋直行……1
新改訳2017の発行案内、関東4教区女性大会……2
船橋教会献堂式、IWF理事会報告……3
海外トピックス、国内局コラム、読書のひろば……4
富山教会献堂式、壮年部運営委員会報告……5
広げた翼……6～8
聖宣神学院報……9～11
公報、消息……12

今秋に発行されます

中型版から順次出版 教団の公用聖書となる 聖書 新改訳2017

新日本聖書刊行会 竿代照夫

家達の助けを得て検討がなされた。文章を簡潔にすること、漢字を多用することなどがその一例で、サンプル版を通してご覧いただいている通りです。

IGMとしては、来年初めから公用聖書として用いることが今年3月の年会で決定されました。13年前になされた第2版から第3版への移行は、変更箇所が限られていたもので並行使用も可能でしたが、今回は全面的改定ですので現行の第3版との並行使用は難しくなります。ですから各教会におかれましては、教会備え付け聖書も含めて、一斉の切り替えをご計画頂きたくお願いいたします。

福音派諸教会の協力の証として、新改訳聖書の全面改訂による新しい翻訳聖書への努力が続けられて来ましたが、今年秋、遂に完成の見通しとなりました。今は最終校正が懸命になされております。今年10月30日(宗教改革記念日前夜)、完成感謝会が持たれ、その後から頒布が始まります。

この事業のために尊いお祈りとご献金、「翻訳ファンド」へのご協力を頂きましたことを心から感謝いたします。特にファンド返済を一年猶予して頂くことにつきましては、多くの教会の温かいご理解を賜りましたことを感謝申し上げます。

「翻訳ファンド」にご協力いただいた教会には優待割引が適用されますし、それ以外の教会にも出版記念特別価格が計画されていますので、今から準備頂ければ幸いです。刊行会としてのお知らせとお願いを申し上げます。

謝り申し上げます。

今回の改訂では、過去半世紀に亘る聖書学の成果を十分に反映し、原語の意味をより正確に訳出することを目指しています。同時に、より美しく、分かりやすく、品格のある日本語にするように、日本語の専門



出版事業部から……

新しい聖書の発売 詳細が決定

出版事業部 川村和臣

すでに案内されてまいりました「聖書 新改訳2017」がいよいよ発売されます。

発刊スケジュールとしては、

▼中型聖書 10月末
定価5,832円(税込み)

▼大型聖書 11月末
定価8,424円(税込み)

▼小型聖書 12月末
定価3,780円(税込み)

▼大型聖書引照なし 来年春
定価8,424円(税込み)

すでに発売元のいのちのことは社から割引案内も届いておりますが、出版事業部でも教団内の教会には

▼早期予約割引(7月中旬まで)
▼発売特価割引(来年5月まで)

等の割引価格を設定し、案内させていただきます(詳しい価格などは教会にてご確認ください)。

特に早期予約割引はかなり割安となっております。ご検討の上、教会を通じてご注文ください。

今後は電子版聖書、Jばいぶる(アドオンデータ)などの発売も予定されています。詳しいことは出版事業部までお尋ねください。

関東4教区合同女性大会

竿代まきば先生を迎えて

ホーリネス・ライフを 母 マリヤの如く

鶴ヶ島教会 家城幸江

くださいました。そして、ローマ書一第二章1、2節を結論として締めくくられました。

「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」

聖霊のチェックに従い歩み、聖なるお方を意識し、このお方が私に目を留めていてくださることを喜びながらの歩みを継続することが、私たちのホーリネス・ライフであると教えられました。

午後は二人の方のお証しの後、久しぶりに会った方々と旧交を温め、頂いた恵みや祈りの課題を分かち合い、お祈りをして散会いたしました。その間、集会には出ずにキッズ・コーナーを担当してくださった方々の影の御労があったことも忘れてはならないことですのでお祈り感謝しつつ。

関東4教区合同の女性大会が5月5日に、中目黒教会を会場に開催されました。今回の講師は、磐田教会の竿代まきば先生でした。集会は午前中に聖会の形でメッセージを語っていただきました。説教題は「母、マリヤの如く」で、聖書箇所はローマ書一第二章1、2節でした。参加者は、午前140名、午後100名(子ども13名)でした。一年半有余、数回の委員会を持ち、祈り準備してきました女性大会を、恵みのうちに終えることができ聖名を崇めています。長く中心になりリードしてくださった先生を転任で送り出し、不安な要素もありましたが、教会員の皆さまの力をこめた献身的奉仕のゆえに、主が栄光を表してくださいましたこと、担当者一同感謝をしています。

女性大会の大きなテーマはきよめと伝道ですが、講師の竿代まきば先生はこのテーマに沿って、マリヤの姿から、ご自身のホーリネス・ライフの証しを交えてお話し



献堂式

船橋教会

待ち望まれた新会堂が



林 正弘

「祈りを聞かれる方よ。みもとにすべての肉なる者が参ります。」

(詩篇六五篇2節)

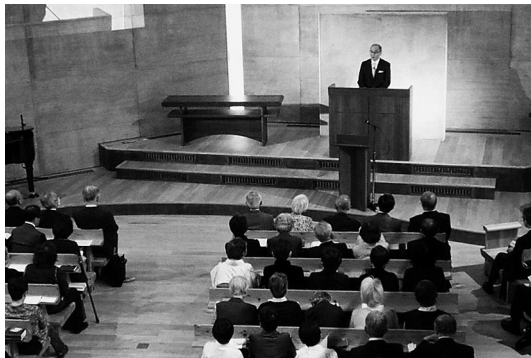
「祈りに祈りて 建て上げ終りし 栄えの御殿を 献ぐる日は来ぬ」と歌うことを、船橋教会員はどれだけの年月、待ち望んできたことでしょうか。4月29日、ついにその日が来て、解放された歌声は、コミュニティー・チャペルの礼拝堂に響き渡りました。

当日は、澄み切った青空の下、3月末に竣工したコミュニティー・チャペルと昨年2月に竣工し、献別して使用を開始していたバイブル・センターの二棟の献堂式が、教団代表藤本満先生の司式で行われました。完成したらなるべく早く献堂したいとの願いと今年の暦から、祝日でありながら土曜日となった献堂式でしたが、近くから遠くから、また教団の内外から多くの先生方のご列席をいただきました。

心からの讚美歌と教会員が声を合わせてした献堂宣言は、感動的なものでした。経過報告では、教会創立にさかのぼり、会堂がいくつかの変遷を経て現在に至ったこ



とが説明されました。特に、前会堂が1960年に献堂されて数年後に会堂の大部分が含まれる都市計画道路が定められたこと、その後、再開発、借地契約の問題、そして都市計画道路建設への対応とともに、新会堂建設の営みが進められてきたことを振り返り、実に長い道のりを先が見えない状態で歩んできたことが思い起こされました。長く続けられてきた船橋市との協議のなかで、海神二丁目の土地が代替地として提示されたことが、事が動き出しました。教会は、



慎重に検討を重ねた結果、受け入れを決定し、併せて、前会堂の敷地のうち用地買収後も残る土地も活用することとしました。二箇所での建設と運営は、コスト面での負担はあるものの、従来の場所は実質的に教会創設の地であり、そこにイムヌエルの看板を掲げ続けることが重要であること、また立地上、人の行き来も多く、伝道活動の拠点となる場所であることさらに、一棟を先行して建設することにより、引き渡しが遅れる新敷地での建設中も「ここに教会がある」ことを示し、教会活動を維持できることから、必要なことと判断されました。面積的にも二棟で役割分担することが必要で、今後は二棟一体で教会活動が進められることとなります。そのような意味で、二棟合わせての献堂となりました。



献堂式の式辞説教は、マルコ一〇章31節の「先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです。」から敷衍して語られました。船橋教会が裾野の広い教会であると表現され、これまでの歴史といま教会を構成する多くの世代、これからの世代などについての思い巡らしが促されました。コンペ開始から完成まで3年余りかかりましたが、建設に携わった設計者、施工業者、コンサルタントに対する心からの感謝を表明する時も持たれました。



式後は、自由に建物内を見ていただき、また希望者にはバイブル・センターまでご案内させていただきました。器はできましたが、中身はまだです。二棟一体での教会建設はこれから本番です。これまでも多くの方々のお祈りをいただきましたが、引き続きお祈りいただきました。巡回のため帰国します。

―W F 理事会から…
**教会の働きを
宣教師といっしょに**
世界宣教師局長 梅田登志枝
去る5月9日(火)に、お茶の水本部でW F 理事会が、フィリピンよりウエスレアン・アジア担当のカリソナル師を迎えて開催されました。
▼宣教師たちは首都圏や関西の教会を中心に諸教会、聖会などで活動しています。宣教師を招くための交通費補助もあります。ぜひお招きください。申請用紙を請求し宣教師と日程、集会内容をご相談の上、委員の梅田登志枝までお届ください。
▼ブランドン宣教師は5月末、アンドレア宣教師は6月アメリカに

国内教会局から

新約の諸教会再訪

模範的な教会



第二次伝道旅行道中、ト
ロアスで聞いたマケドニア
の声に応答した一行はエー
ゲ海を渡り、西岸一帯で伝
道を拡大します。テサロニ
ケでは暴動に見舞われたこ
とをルカは記録しています
が、その結果結ばれた実は

美しいもので、パウロはこ
の町の聖徒たちについて地
域一帯の模範となったと神
に感謝をしています。彼自
身がまず模範を示しますが、
今では愛の労苦、信仰の働
き、希望の忍耐、どれをとっ
ても神への感謝となるので
す。そしてパウロは繰り返
し「ますますそのように歩
んでください」と励まし
ます(一テサロニケ四、一、
二)

10他)。模範的な信仰は励
まされ、愛は増し、福音理
解は深まり、日々の歩みに
さらなる力が加わり、マケ
ドニア全土の教会がその恩
恵に与るのです。一つの教
会の祝福が波及して一帯の
諸教会を潤す、教会のその
ような有機的なつながりを
幻としながらこの時代の教
会に仕えたいものです。
(葛田崇志)

■世界最大のイスラム教国インド
ネシアで世界最大のキリスト像建
設計画
世界で最もイスラム教人口の多
いインドネシアで、世界最大のキ
リスト像の建設が計画されてい
る。建設が計画されているのは、
ニューギニア島西側のパプア州の
州都ジャヤプラのブンカク・グヌ
ング・スワジャヤ山の頂上。
像の高さは約50m、土台の高さ
が約100mになるとしている。
リオデジヤネイロ五輪を機に改め
て日本でも関心が高まった「コ
ルコバードのキリスト像」の高さ約
30m、土台約38mを大幅に上回る
ことになる。

インドネシアのキリスト教人口
は、総人口2億4千万人(2010
年)の1割未満に過ぎない。一方、
イスラム教人口は87.2%に上る。
人口の上では世界最大のイスラム
教国だが、イスラム教を国教とし
て定めているわけではない。
像の建設には地元議会の承認



海外トピックス

が必要で、着工にこぎ着けるか
はまだ未確定。建設費用は約
2530億円から4220億円に
上ると見込まれている。人口の3
割近くが最低生活をしているパプ

ア州にとって相当な金額になる。
■イスラエル人口の75%はユダヤ
人
69回目の建国記念日を前に、イ
スラエルで人口統計が発表され
た。現地紙「エルサレム・ポスト」

によるとして、情報サイト「シオ
ンとの架け橋」が報じた。
現在の人口は868万人で、ユ
ダヤ人は75%、アラブ人は21%。
残りの4%余りは旧ソ連からの移
民などユダヤ人と認められない
人々となっている。

■輪廻転生制のあり方でタライ・
ラマ14世が予備協議へ
チベット仏教の最高指導者タラ
イ・ラマ14世(81)はこのほど、
インド北東部アルナチャルプラデ
シュ州を訪問した際、現在のタラ
イ・ラマ法王制度の存続の必要性
について、チベット仏教指導者に
よる協議を年内に始めたいとの考
えを明らかにした。
同州タワンで記者会見したタラ
イ・ラマは、制度を存続させるか
どうかは「チベット人次第だ」と
従来の主張を繰り返す一方で、多
くの人が厚い信仰心を持っている
として、制度存続に肯定的な考え
も示唆した。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



いま注目されている本!

使徒パウロは

何を語ったのか

N・T・ライト著
いのちのことは社刊
出版事業部扱い
定価二、四〇〇円

この度、N・T・ライト著『使
徒パウロは何を語ったのか』を邦
訳出版させて頂きました。

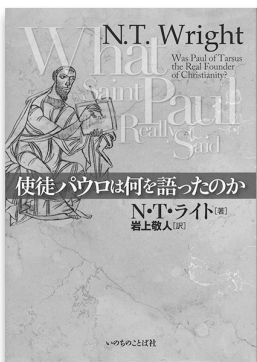
N・T・ライトは近年、世界的
に著名な英国の新約聖書学者、神
学者です。ライトは英国セントア
ンドリュース大学の教授であり、
ウエスタミンスターやダラム大聖
堂主教の要職を長年、務めた英国
国教会の教職者でもあります。

本書でライトは、これまで使徒
パウロは本当に正しく理解されて
きたのだろうか、という問いかけ
を教会に向けて投げかけています。
それはまた、信仰義認を中心とし

て、神・罪・救いに代表される「神
の前における個人の救い」こそ、
パウロが、ローマ人やガラテヤ人
への手紙で伝えた「福音」だった
というこれまでの神学に対する真
剣な問いでもあるのです。

本書でライトが強調しているの
は、パウロの福音とは「イエス・
キリストは王である」という宣言
だったということです。「ナザレ
のイエス」こそ、旧約聖書のメシ
ア預言の完成であり、十字架と復
活によって王となられた主(ヤハ
ウェ)である。一世紀ギリシア・
ローマ世界にあって、それはロー
マ皇帝よりも権威ある全世界の王
が立てられたことを意味していた
というのです。このようなパウロ
の福音理解を持つなら、これまで
伝統的に理解されてきた「信仰義
認」の教理もまったく新しい光を
放つことになるのです。

本書は、一般のクリスチャン向
けに書かれた書籍ではありますが、
専門的な聖書解釈にも入り、また
二〇世紀のパウロ神学議論の中
に位置づけられていたり、さらに私
たちからすると、読むに値しないよ
うなパウロ伝の著作を丁寧に取り
上げたりしているので、読みにくい
箇所もあるかもしれません。それ
でも丁寧に読んでいくなら、パウ
ロの福音の核心に私たちを導いて
くれる本だと思います。ご一読い
ただけると幸いです。(岩上敬人)
*今後、注目される本ですので、
今回は書評を翻訳者の岩上敬人先
生にお願いしました。(矢)



献堂式

富山教会



主が備えた器たちによつて

高桑 信雄

「わたしにとどまりなさい」

ヨハネ一五章4節

五月晴れの天候のもと、5月4日に富山教会の献堂式が恵みのうちに終わりました。背後のお祈り、多くの方々から寄せられたお祝いのお言葉に感謝申し上げます。

式では国内教会局長の内山勝先生より冒頭のみことばを語っていただき、教員一同、新たな信仰の出發をいたしました。

*

この度の会堂建築は前任の西田先生時代に基本構想がまとめられ、後任者はそれを具体化する役でした。ダビデが神殿建築のため十分な資材を用意し、後任にそれが託された時と似ていました。

とは言え、牧者の転任は教会には大きな痛手であったようで、計画の一時中断、全てのプランの見直しに、戸惑う場面もありました。背後のお祈りを感謝申し上げます。

大きな動きとしては設計士・寺田晶彦兄との出会いがありました。飯塚俊雄先生(日本イエス・キリスト教団東京若枝教会)をお訪ねして会堂を見せて頂くなどは夢の世界、予想外のことでした。案内



役は会員の寺田兄でした。結果、10月に富山秋の特別礼拝と勉強会が実現しました。ご近所の方々や関係者も集う祝された時でした。一時ストップしたプランを再稼働させるにはそれ相応の計画、勉強も必要ですが、会堂拡張を待つ子どもたちを前に、もう時間はかけられません。迷いや辛い群を導く羊飼いの役が必要でした。特別集会の後、皆さんに感想を聞く設計は寺田兄が良いという一致した意見でした。それまで図面を画いてくださった設計士も大変優秀



な方でこの地方では有名な方でしたが、神さまのご計画は違うところにあったようです。神さまの雲の柱は動き出ししました。その後は、ついて行くのが大変なほどのスピードで素案から3か月後の昨年3月、設計士との契約。4月、建築業者の選定。6月、工事契約と起工式。9月上棟。12月15日、完成引き渡し。23日は引っ越しも半ばの中で、ご近隣の方々も迎えたクリスマス・キャンドルサービスがあり、これが実質の入堂式となりました。新会堂で初めて迎えるクリスマス礼拝の朝、皆さんの賛美の声は天にも響くようでした。



主の導きはとどまったり一気に進んだり(民数記九章17節)、歩みに慣れていない私たちには戸惑いも多くありましたが、主は群を優しく導いて下さったと感謝しています(イザヤ四〇章11節)。

献堂式には西田先生を初め遠近より先生方、兄弟姉妹がご参加くださり、開拓特伝の協力を思い出す尊いご奉仕を頂戴しました。お祝辞をいただきましたT先生からは献堂の意義を、地域教会O先生からは教会の使命と共労の祝福について、Y先生からは「これが完成ではありません」とお言葉がありました。漸くたどり着いた会堂建築、献堂もそれが完成でも限界でもなく、「この宮のこれから後の栄光は、先のものよりまさろう」(ハガイ書二章9節)は、多くの先生方から贈られたみことばの一つでした。

共に祝ってくださった皆様には深く感謝申し上げます。与えられた主の宮が主のお働きのために用いられまますよう願っています。なお今後のためにもお祈り頂きますと感謝です。

壮年部運営委員会から…

ブロックごとの壮年部大会を

鴻巣教会 西澤 誠

日ごろ、全国壮年部の働きに、尊いお祈りを感謝いたします。過ぐる5月9日、本部会議室におきまして定例の運営委員会を開きました。ブロック担当者より、昨年度の各教区の報告をいただくとともに、今年度の活動の検討を致しました。

部では、現在、ブロックごとの地区大会開催を目指しています。昨年は、沖縄と四国におきまして大会が開かれました。また、隔年開催の関東4教区壮年部大会も行ないました。

地区大会開催の強化を目指して経済的な支援を行なっていますが、各地区の実情を考えると、一律の支援では補えません。参加するための交通費だけでも大きな負担がかかる地域があります。各地区の実情にあった支援を検討していきます。

また、教団の組織改革が検討されている現在、今後の部のあり方についても意見の交換をいたしました。どのような展開になるかは分かりませんが、より良い働きの継続が見られることを祈りつつ、会議を終了いたしました。

巻頭言

世界宣教 聖霊ご自身によって



世界宣教局長
梅田 登志枝



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「聖霊があなたの方の上に臨まれるときあなたがたは力を受けます。そして……地の果てにまで、わたしの証人となります。」
(使徒の働き一章8節)

弟子たちは昇天されるイエスママから「証人となる」約束が与えられました。ところがペンテコステに聖霊を受けてもなお「地の果てにまで証人」となることも、その意味を理解することも難しかったのです。それは選民意識の根深さによるものでした。ではどのように国外宣教が実現していったのでしょうか。それはほかでもない聖霊ご自身によるお働きです。
◇聖霊は困難を動力に変える
ペテロの説教から始まって多くのクリスチャンが興されました。ところが同胞ユダヤ人からの迫害が始まり、エルサレムのクリスチャンたちは周囲に散らされます。しかし、かえってその困難によって福音は広がりました。そしてピリポが奉仕したサマリヤにリバイ

バルが起きたのです。迫害が、宣教の動力となっています。使徒の働き八章26節で、聖霊はエルサレムに戻ったピリポに、今度はガザに行くようにと命じます。そこは人のいない荒野です。宣教には困難と考える地です。けれどもピリポはサマリヤでの栄光をすべて主に返し、荒野に向かいました。それは聖霊の促しに従ったピリポの服従を意味します。聖霊は困難や戦いさえも動力に変えて宣教を進めてくださるお方です。そしてその荒野にいたのは一人の異邦人高官でした。
◇聖霊は「一人」に全力を注ぐ
エチオピアの女王に仕えるその高官は強い求道心を持っていました。キリストの十字架を教えられ、回心します。聖霊はピリポをこの「二人」のために遣わしたのです。たった一人の異邦人のためにです。聖霊は国の内外を問わず「二人」の救いのために宣教を押し進められるお方です。この高官の帰郷後の生涯は定かではありません。けれどもエチオピアは北アフリカ唯一のキリスト教国と言われるようになったこと、彼の回心はおそらく無関係ではないでしょう。
世界宣教は聖霊ご自身の働きです。私たちもピリポのように聖霊に従いつつ世界宣教に参画したいものです。たとえ荒野と思える場所であっても、たった「一人」のための祈りと労であつても、そこから世界宣教が始まることを信じましょう。



ZAMBIA

ザンビア

根廻恵子*2017年5月2日

今年のザンビアの4月は中旬まで時折雨に恵まれ、長い雨期となり、乾燥しやすい地面を潤してくれました。現在いるジェンボは以前のジンバより北上した位置にあり、まだ4月ですが既に風が吹き寒くなってきました。
クリニックでの働きは4か月目を迎えています。上旬に役所から監査があり、その当日に監査の連絡が入りました。その準備をしている途中に訪問者を迎え、急なことでほとんど準備をしておらず、いろんな面で指摘を受けました。特に、全体の印象として汚いことや、資料が整理されていないこと。十何年前に訪れたことがあり、今の状態がその時より悪くなっているということ、ミッシヨン病院として改善の余地が多々あるとの評価を頂きました。初めてジェンボに来た時には気になっていたことが、しばらくいると新鮮な感覚は薄れ、その環境に慣れていくことを気付かされます。毎日掃除

はしているのですが、資料の整理や物品の整頓をしておらず、職場環境、医療サービスの提供場として、不適切な状態でした。スタッフにとつては、やっているのにやっていないという評価は辛いものですが、本腰を入れて取り掛かるためにはいい刺激となりました。スタッフが少ないことや、お金ないことでチャレンジはありますが、時間を見つけては資料の整理をしたり、近隣の教会やコミュニティに声をかけ広い敷地の草刈りをお願いしたり、手作りのワックツスを作るなどして工夫しながらできることを少しずつ行っています。このことで改めて、このクリニックの存在がただ医療サービスを提供するだけでなく、証の場として提供されていることを覚えます。
最後の週はほとんどのスタッフが勉強会や会議にジェンボから出ており、大変なスタッフ不足で、ある日は看護師が私ひとりの時もあり、その日は急遽休みのスタッフに頼んで出してもらいました。その日は救急搬送のケースが多々重なり大変忙しい日でした。ペンバ郡にある1台の救急車が他のクリニック(片道4時間先のところ)に出勤しており、代用の車が準備されて来るまで5時間かかり、改めてザンビアの医療システムの課題を痛感しました。
忙しい中にも神様の臨在と導き、見守りがあることをスタッフと分かち合い、御名を崇めつつ前進しています。 ■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2017年5月8日

いつも尊いお祈りと温かいご支
援がありありがとうございます。4月
に入り、急に気温が上昇し、連日
の真夏日となっています。この時
期は梅雨なのですが、空梅雨で、
各地で水不足懸念の声が上がりつ
つあります。
今年のエースターには、先月の
お祈りのリクエストが見事に答え
られ、新しい方や久しぶりの方々
をお迎えすることが許されました。
まさに主は生きておられ、私たち
と共に歩んでくださいます。
長引く健康の戦いにある愛兄弟
方を訪問しつつ、今月は違った形
で、愛兄弟からの証しを聞きまし
た。呂兄弟は、一進一退の体調で
すが、呂兄が明るい表情で、「こ
のオンボロのからだ、あちこちに
ガタが来て、ちっとも治らない。
でも、感謝します。聖書を読むと
きだけは視力が安定するのです。
ほんとうに感謝です。」介護老人
ホームに入居中の蘇姉。「驚きま
した。娘夫婦が急に台北からやっ

て来て、この間の日曜日、ここか
ら一番近い教会の礼拝に連れ出し
てくれました。祈りに神様は答え
てくださいました。」
先月の集会では、はからずも記
念の証し集を受け取りました。こ
れは、集会のレギュラーメンバー
のひとり、周秀錦姉が、日本語集
会に出席して10年になることを記
念してまとめられたものです。毎
月、流暢な日本語で近況報告と恵
みを証ししてくださるのですが、
その書きとめた証しを見開き日中
対訳の形でまとめ、それに多彩な
趣味をもつ愛姉の絵画や書道を加
えたものです。一口に10年と言っ
ても、漠然としたものになります
が、このようにまとめられたもの
を見ると、涙の谷があり、忍耐の
祈りがあり、それらが少しずつ、
時を経て、喜びの泉、感謝の谷に
変わっていったという、まさにい
ろいろなことのある中で、主に守
られて今日まで来ることができた
という大きな感動と感謝を覚え
ずにはいられませんでした。
毎月の集会にも午後3時半とい
う一番暑い時にもかかわらず、年
輩の愛兄弟方が真実に転倒され、股
関節を強打、骨折されたG兄も、
この10か月、集会出席は許されな
い中、毎月送付される集会CDや
週報、信仰の読み物を通して、支
えられているとの近況を寄せてく
ださり、みなで愛兄の回復のため
に祈りのときを持ちました。一つ
一つ、一步一步の歩みです。■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2017年5月9日

今年もWGMケニア教区のリト
リートが守られ感謝でした。講師
は前総理のハリマン師夫妻。祈り
をテーマに幸いな養いを頂きました。
近年会場だったところからよ
り安全な場所へと変更はありまし
たが、宣教師子弟の洗礼式、今年
引退されるVご夫妻の送別、進学
でケニアを離れる2人の若人のお
祝い等、滞りなく行われ、休養と
交わりの祝福もありました。
今年AGC「宣教五〇周年」
の年です。4月23日にマサイ族の
多いナイカラで記念礼拝が行われ
ました。テヌウェクでWGMの宣
教の働きが始まり、そこで治療を
受けた患者さんの村の長老方があ
る時やってきて、「私たちの村に
も来てほしい」と要請されたのを
受け、テヌウェクからナイカラに
出張診療と伝道をするようにな
り、やがてケニア人(キプシギ族
出身)「宣教師」のマキビオール
夫妻(IGM田中宣教師の教え子
の一人)が派遣されWGMの宣教



師とともに奉仕を開始されました。
夫妻のお子様方は全員ナイカラで
生まれたそうです。記念礼拝には
夫妻と、成人されたお子さん方も
招かれ、スピーチをされています。
言葉も習慣もわからず途方に
暮れて祈った最初の頃を懐かしな
がら、「でも今は話せますし、1
時間半でももっとでもスピーチ出
来ます」とご挨拶されたM夫人宣
教師、「当時学校には私をいれて
二人だけでした」と言っておられ
たお子様等、例えば学校で教育を
受けさせることに閉鎖的であった
当時のご苦労を思わされましたが、
今は周辺に学校があり、数百人の
生徒が通っているそうです。
ケニアの法律に定められた1か
月近くの年次休暇を3月末から頂
いています。ストの余波でしよ
うか、3週間ほど経過して、体
力気力などが「戻ってきた」とい
う感覚が与えられ感謝です。■



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2017年5月2日

この報告が教報に載せられる時
はカンボジアにて再びKCCの伝
道者やグレッグ宣教師、マーク宣
教師方と共に福音の働きに携わっ
ていることを知って頂き、一寸、
お仕事から心カンボジアでの宣
教の働きに向けてくださり、お祈
り頂けましたら、その祈りにより
主の御目がカンボジアの畑と働き
の上に注がれ、御業の促進の時と
されるのではないかと思います。
3月上旬、米国からの支援隊、
ケンウッド教会の伝道者、平信徒
方、計7名の応援隊によりKCC
伝道者家族リトリートが持たれま
した。クラスは牧師、牧師夫人、
そして子供達と三つのクラスを夫
それぞれ牧師や信徒方が受け持ち、
霊肉共にリフレッシュされた時が
もたれました。彼らの奉仕の姿勢
にはさすがアメリカの長い宣教に
携わってこられた教会の支援隊の
奉仕隊であることを教えられ、い
つの日か日本の宣教地訪問の姿と
なるようにと祈らせられるもので



写真はヴァンデー夫妻。■

した。このリトリートの費用の一部はIGMのコイン献金から献げられて実現可能となりました。全国からの支援に感謝を申し上げます。また現地の伝道者方からの心からの感謝もお伝えしつつ、共に主の御名を崇めさせて頂きたいと思えます。これからも誌面の許される限り米国の支援隊の働きや伝道者方の様子をお届けしたいと願っています。引き続きお祈りをお願い申し上げます。またカンボジア宣教のニュースレターも折々作成して、個人的に要望を頂いた方、宣教奉仕に携わっておられる教会にはその都度報告をお送りしておりますが、なお、ご希望の方々、教会がございましたらその旨、ご連絡ください。お送りさせて頂きます。聖と宣の宣証の群として働きが進められますよう祈りつつ、皆様への祝福をお祈り申し上げて報告に代えさせて頂きます。写真はヴァンデー夫妻。■



フィリピンは日中37度前後となる真夏日に入りました。子どもたちは夏休みに入りましたが、夏期講習に出席し、補習しています。ウェスレアン教会の第8次総会がロザリスのリゾートで開かれました。今回は新しい代表と局長が選出される大切な総会でした。そして、前教育局長のジャーニー・ギリアモ先生が新代表として選出されました。ギリアモ先生ご夫妻は、私たちがフィリピンに赴任してから色々な相談に親身になって耳をかって向け、アドバイスをし、祈ってくださいだったメンターでしたので、私たちにとても大変喜ばしいことでした。その他に、世界宣教局長にはシルバー・ルマハン先生が再選されました。また、教育局長には前出版局長であったメルビン・アキノ先生が新しく選出され、これからは私たちがお世話になります。常喜は、議場にて代表からの挨拶状を読み上げました。アメリカからウェスレアン教会総

理シユミット先生御夫妻、またカリブ海から2人の来賓、グローバル・パートナーズのデニス・ジャクソン先生、そしてスピーカーの1人として前フィリピン宣教師で引退されたポール・ターナー先生が出席され、国際色豊かな総会となりました。今回の総会では「進展」をテーマとし、目標として2020年までに345教会の開拓を目指すこととなりました。ウェスレアン教会の祝福のために引き続きお祈りください。



写真は講演のターナー先生。■

宣教師ビザのためにお祈り頂きありがとうございます。今月、代理人から連絡をいただき、家族で移民局に出頭し、外国人登録証の写真撮影、指紋を取りました。書類は移民局長に渡され、承認を待つ最終段階に入りました。引き続きお祈りください。

お祈りの課題

- 会計報告4月分
宣教献金 三、八六三、八六五円
月平均 二、一九八、四三三円
- ケニア(葛田就子)
リトリートの祝福の感謝
AGCの宣教の働きのため
8月8日予定の大統領選挙及び関連の活動が平和に執り行われるように
- カンボジア(葛田緑乃)
KCCのベラスとなる建物と土地の必要が与えられるように
伝道者の救霊の力とパッションが御霊により注がれるように
グレッグ先生の開拓中のブノンペン市内の教会の礼拝堂が与えられますように
- ザンビア(根廻)
忙しさの中にも神様の見守りがあったことの感謝
心と体が守られるように
- ザンビア(富澤)
健康と霊の支え
車を支えられるように
宣教師館の完成のため
フィリピン(豊田)
新校長アレックス先生のリーダーシップのために。夏休みに入った学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ、新学期(8月)に臨むことができるように
- ◆ 新総理としてジャーニー・ギリアモ先生が、各局長がそれぞれ選出されました。新しく踏み出し

- たウェスレアン教会のため
◆ 事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように
◆ 子どもたちの学びのため。現在手続き中の宣教師ビザ取得のために
- 台湾(平瀬)
◆ 台中教会、台南日本語集会 毎回の集会に続けて集う方が興ざれますように
◆ 週半ばの祈祷会が強められ、祝されるように。又、学校行事が重複し持てなくなっているジョイシヨイクラブをもつことができそうですように
◆ 私たち家族のため。子どもたちの学びと夏期巡回報告の諸準備、留守となる教会のために
◆ 緊迫する極東アジア情勢の中で、台湾の政治と経済、治安が安定を見えるように
- 香港(鹿島)
◆ 6月4日の創立8周年記念感謝礼拝の祝福のため
◆ 月1回で始められた礼拝後の男性中心の祈祷会のため
◆ 広州と深圳での働き、宣教師の出入りの安全のため
- 東京国際教会(葛田康毅・由理)
◆ 東京国際基督教会の奉仕の締め括りと引継ぎのため
◆ 夏から始まる巡回の準備と霊肉が整えられるように
◆ 次の働きについて、確かな主の導きがあるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

信仰は増すのか？

院長 ● 河村 從彦

「私たちの信仰を増してください」(ルカ一七・五)

信仰は年限を重ねると増してくるといふイメージがありますが、何となく立派な人が成し遂げる修行みたいな感じがして、しっくり来ませんでした。

ところで、5節のこの祈りは、1節の「つまずきが起るのには避けられない」というイエスさまのことばからの流れで読むと何となくわかります。それにしても1節は強烈です。しかし、あらためて心を静めて読むと、たしかにそんな自分かもしれないとも思います。

奉仕してきた中で、教会の方につまずきを与えてきたのではないかもしれませんが知らぬ間に、です。人間は不完全ですから、気をつけてもつまずきを完全に与えないで済むこととはないかもしれません。さらにその後、赦しについて語られています。赦しも難しいことです。イエスさまは言われました。「かしらし種ほどの信仰があったら(6節)。イエスさまは、信仰は大きい小さいの問題ではないということを示唆したあとで、一つのたとえ話を語られました。そしてそのしめくくりで、「なすべきことをしただけですと言いなさい」



図書館入り口にプレートが貼られました

(10節)と言われました。信仰とは、人間の側に「これだけやりました」と言えるものがないことです。「注ぎ出して祈ったから」とか「信じきったから」ということではなく、イエスさまがしてくださることに焦点が合わされません。自分の信仰は増したかに思いが向けば、どこか自意識過剰に陥り、そこに嘘が入る可能性があります(マタイ六・五)。しかし、自分の情けなさに正直に向き合い、「私の信仰を増してください」とシンプルに祈る祈りは、イエスさまに対して自分が何かしたなどともいえない、やっていたただくしかない自分なのだということを知っている真実な祈りです。信仰とは、神さまの恵みをそのまま受け止めてゆくありようのことです。

神学エッセー

日本の伝道再考 2 先行的恩寵を考へる



野田 禎

キリスト教と諸宗教、第2回目は、他宗教の方に見る先行的恩寵ということを書いてみたいと思います。

半年の講義の中で、ビデオや何人かの本を紹介しました。

*

一、浦田ナハマさん

浦田さんは、沖縄のユタでした。あるときに暗い霊に導かれ占いをするようになります。憑依が終わると全身の脱力感。霊に引き回される恐怖と苦しさを感じていました。

息子さんの奥さんがクリスチャンになったことをきっかけに息子さんもクリスチャンになり、お母さんを伝道集會に連れて行つてくれ、そこで主を信じ、その霊からも完全に解放されたのです。

二、松岡広和さん

天台宗の僧侶の方。韓国に留学しているときに親切にしてくださった韓国のご婦人の暖かさ、熱い祈り、愛を通してクリスマスに教会に行き、やがて罪の存

在を神様が示してください。その後、スチャンになられました。その後、牧師になられました。

三、藤井圭子さん

岡山の小児科医。心の深い渇きを感じて、出家のために京都に尼僧院に。仏教大学を出て、舎監になります。が、「なにか違う」と感じて、還俗。家の隣にできた教会に導かれ、そこでイエス・キリストこそ求めていた救い主であることを信じ、やがて家族も救われます。小児科医であるとともにキリスト教の伝道者となり今も活躍中。

四、升崎外彦さん

浄土真宗の僧侶の息子さんでしたが、主イエス・キリストを信じ、父親から勘当。やがて牧師となり出雲、和歌山で伝道をされます。お父様も升崎さんを通して神様を求め、祈り、復活の主に出会い改心。

私たちは、神様の先行的恩寵とすることを大切に考えている群れにいます。今、ユタであっても、僧侶職の方であっても僧侶の息子であっても神様の恵みは先回りをして存在しています。

*

私たちの家族はどのような宗教的背景かはそれぞれですが、神様の先行的恩寵、恵みの無い所はありません。

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」(使徒の働き一六・31)。「救い得るは愛なり」(インマエル賛美歌二六〇番)。

◆神学院に入学を許されて

おいしい？学院生活！

正規コース 竹内俊之

コンニチワ！ポロット俊之号デス！サクネン……（読み難いので変換！）昨年、秋に聴講生入学し、四月から正規生としての学びと男子寮生活が始まりました。新年度、正規生としての気づきと抱負をリポート致します。大きな違いは①神さまの学びで毎日が始まり〜終われる幸せ②男子寮生活の開始です。正直、入学前は固く、厳しく難しい、授業が延々続くと考えていました。しかし現実には正反対！学びは過去から未来を模索出来る学び。楽しいのです。面白いのです。思い巡らしと意見を自由に言い、聴けます。将来の牧者としての備えを質的に豊かにさせていたでています。学びを円滑にするオイルたる、学院図書館の多くの蔵書や図書館司書の先生方との語り。霊的に豊かにされる折々の幾多の祈り。そして目には見えませんが学舎には卒業された諸先輩の真摯な学びの芳香が充満しています。そして躍動の学びたる教会実習の開始！俊之号は四月から高津教会の教会学校で子どもたちとイエスさまを最初から丁寧

と一緒に学び始めました。真っ直ぐな君たちのキラキラした瞳は俊之号の「美味しい魂のご馳走」で感謝しかありません。さて「美味しい！」と言えは？食生活！学院食堂ではボランティアスタッフの皆さまにより、曜日がわりで、温かな母の味が振舞われて、学院の先生方、スタッフの皆さまそして我々神学生の強力な学びの「燃料」になっています。また、同僚となつた峯尾兄弟は製造年月日は私の約二分の一ですが、主に仕える姿勢は真摯かつ謙遜で刺激になり感謝。そして学院生活の抱負は一つ！「愛と義」に溢れた『聖書』を血肉となるようにもつともつとムシヤムシヤ食べる事です。

●神学院の学びの中で

新しい年度を迎えて

聴講生 斎藤純雄

「真理と柔和と義のために、勝利のうちに乗り進め。」
(詩篇四五・4)

昨秋から聖宣神学院への入学が許され、後期の祝福された学びの期間が守られました。建物・敷地・図書館など良く整備された環境の中で、先生方の貴いご愛労による毎日の充実した授業やチャペルの小礼拝、心のこもったお昼の食事

と交わり、月一回の本部での神学院祈り会参加やリトリート、卒業式、年会での御奉仕など、どれも初めての経験でしたが、みな心底から楽しく充実して、尽きざる主の豊かな御臨在と祝福に満ちた学びと訓練の時でした。これもひとえに全国の諸教会の先生方、愛兄弟の皆様の尊い祈り・ご支援のゆえでありますことを、あらためてひしひしと感じております。

さて4月より新年度を迎えさせていただき、新しい授業、新しい先生方、そして新入生との出会いが許されています。新年度は週4日、8科目の登録をして、ただ今毎日の授業内容の理解と課題のために奮闘中です。先生方は、神学生のために毎回、真剣勝負で臨んでいてくださり、大切な聖書と神学の真理を教えてくださいただでなく、長い伝道牧会の経験の中か



番犬ラミー 神学生に牧されて……

ら得られた貴重な教え・慰め・励ましの数々を、授業中随所に織り込んでくださいます。先生と神学生が一つとなって作られる授業の一つ一つが充実していても楽しく、これからの伝道者生涯で大きな力となることでしょう。

神学院メンテナンスの現状と展望



メンテナンス委員会 田中 進

あと2年で神学院は創立70周年を迎えます。その年には、神学院本館は築51年、ウェスレーチャペル、食堂図書館棟、男子寮の三棟は築30年、新女子寮も築19年を越えます。大小、新旧10棟におよぶ建物と1万2千㎡という広い敷地を管理するためには計画的にメンテナンスを継続しなければなりません。

昨年はチャペル棟など3棟の外壁、屋根塗装、防水工事を行いました。さらに今年初め、50年近く手を付けず建物を覆ってしまっていた樹木を伐採するなど、構内全体の植木の手入れをしました。教室や食堂が随分明るくなりました。これらの諸費用は約1800万円です。メンテナンス積立会計から支出しました。

さて、先日後援会から信徒3名に参加いただき拡大メンテナンス委員会を開催し、70周年に向けて必要最小限の整備の必要を確認しました。大まかな内容は次の通りです。

①本館棟屋根の塗装および一部改修。②本館棟の耐震補強工事として、教室1とミニチャペルのシェルター化。③本館棟の男女トイレの再整備。④男子寮1階に間仕切りを設け教室の二人居屋(個室)設置。⑤講師宿泊室の設置。男子寮寮監室ないし本館棟の一室を改修する。

これらの概算見積を業者に依頼し、実現可能なものから取りかかります。また、今後の神学院の将来のあり方について教団や神学院のビジョンを勘案しつつ、検討を重ねメンテナンス委員会として教団に具体的な提案をしてまいります。次回の委員会は概算見積を検討します。今後のキャンパス利用計画のため、まず土地利用や評価に明るい信徒の協力を得て検討します。お祈りください。

私の神学生時代 「神さまと僕」の関係で 10期生●新垣重夫



「私たちは夢を見ているようであつた。」(詩篇一二六・一)

「神学院時代」とは、僕にとつて遠い昔のことです。夢を思い出すようにしてあの日を思い出す時が与えられました。本当のところ神学院を卒業してこまで、ギリギリのところを走っていました。で、心の余裕もなく、今では遠い昔のこととなっています。でも懐かしい。あの日々があつたからこそ、伝道者として奉仕をさせていただけたのだと感謝しております。今から数年前、沖繩で日本伝道会議があり、それに出席しました。その時思いました。「あ、僕のうちには沖繩の血が流れているのだ」と。謎が解けたのですが、それが神学院時代の思い出です。

入学してすぐに先輩に呼び出されました。「新垣君、オリエンテーションをしよう。」それから神学生たるもの、伝道者たる者の在り方をこんこんを教えていただくことになりました。ところが、その意味が分からない。先輩は親切にそのままでは伝道者として大変だというのですが、なぜそうなの

かは教えてくれません。僕の問題はそんなものではありませんでした。魂に問題を抱えていたから教会に行くようになり、そんな者を主が召してくださったから、献身して神学院に入学し、僕なりに聖書も神学もその他必要と思うことを一生懸命勉強しました。今でもその勉強法は続いていて、「ことば」を徹底的に消化していくという方法は説教者として重要な武器となっています。

ところが謎が残ったまま卒業しました。どうしてこの謎が解けたのかをお話しなければなりません。結局、この謎は日本伝道会議に出席するまで残っていたのですが、僕としてはもう昔のこととして忘れていました。沖繩の牧師たちの半分しかネイティブはいません。そのネイティブの牧師たちは会議をキチャーシで締めたいと言ったのですが入れられなかったそうです。この話を聞いて謎が解きました。

僕は伝道者生涯を「神さまと僕」との関係だけで走ってきました。先輩たちが教えてくれたのは「人はどう思うか」でした。それがなぜそんなに大切かが分からなかったのです。そしてこの無神経が「沖繩の血」だったのだとあの時分かりました。

僕はこの無神経は神様が下さったものと信じています。今、最高の人生を走ってきたという思いで、最後のコースの一日一日を過ごしております。ハレルヤ。

同窓生の近況

39期生

沼津シオン・キリスト教会●荻野まり子



委託生として神学院に入学を許されて4年目の春より、ミッション教会として教団から遣わされたのが沼津でした。それから早28年目を迎えたところです。神学生時代には週末に電車で揺られて沼津駅に降り立ち、月曜日に学院に戻り合同祈禱会に出席するという生活が懐かしく思い出されます。

沼津シオン・キリスト教会は創立58周年を迎えました。秋には新会堂になってから10周年を迎えます。子育てとともに伝道牧会して参りましたが、2人の息子もそれぞれ社会人、学生となって沼津を離れました。前任者でもある教会の初代牧師が赴任当初より始めた幼稚園の働きもまた、地域再開発による移転に先立って閉じられましたが、地域の子どもたちへの伝道のスピリットは今も息づき、平日も小学生たちが出入りしています。沼津に来た頃は、子ども相手の鬼ごっこや縄跳びも苦ではありませんでした。最近は身にこたえます。これからもこの地の方々の救いを祈り、寄り添っていきます。愛を心から感謝します。

神学院スタッフ…恵みの想起

主にある幸いを覚え

女子寮監 河村みち

自分と向き合いつつ奉仕をさせていただく中で、今感じていることは、人が空気を吸って生きているのと同じくらい、人にはそれぞれ人生に与えられた生き方があるということ。言い換えれば、それは「神さまから与えられた使命」みたいなものかもしれません。人生において、なぜこのような負のものを引き受けなければならなかったのかと思うようなこともありましたが、なぜ自分だけ、と思いたくなるような重荷も共に担ってくださる主がおられるということ。これは、本当に恵みだとあらためて思います。それは、愛する方が荷を担ってくださる幸せなのかもしれません(イムマヌエル讃美歌581番。「主は、私の受ける分です」(詩篇一一九・57)。

●6月に入り、静かなキャンパスです。全国の先生方・サポーターの皆さま、後援会の皆さまのお祈り・支援を心から感謝致します。

●5月の創立記念日特別教会実習を終え、落ちついた日々が過ぎて行きます。前期も後半に入り、夏に向けて学びに集中します。

●「後援会たより」はご覧いただきましたでしょうか。後援会の企画担当委員の方々の力作です。今後は、テーマを決めた毎回の特集、世話人のご紹介など、誌面構成もさらに工夫されるようです。次号は11月に発行予定です。ご期待ください。

学苑だより



●後援会からお願い 世話人は約半数の教会からご協力をいただいておりますが、まだの教会は信徒のどなたかお一人をご推薦いただきたくお願い致します。

●神学院祈り会は今月も第一日曜日の次の火曜日、6日です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥767,775
教会団体による「神学院献金」
¥429,456
合計¥1,197,231

その他の献金(一時・特別)
¥189,000

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です。それで、たいせつなのは、植える者でも水を注ぐ者でもありません。成長させてくださる神なのです。」
 (1コリント三・6-7)

上半期6か月間の最後の月を迎えました。6月4日は、大切なペンテコステ(聖霊降臨日)の聖日を迎えます。一人ひとりを育ててくださる主の御霊に信頼しつつ、植える働き、水を注ぐ働きに力を尽くして取り組みましょう。各教会における救霊と牧会の働きが祝されるように祈りましょう。まもなく迎える夏の諸プログラムに向けての準備も祝されますように。

- 本部 (会議)
- 5日(月) 6日(火) 神学・宣教部会
- 12日(月) 13日(火) 神学・聖書部会
- 13日(火) 災害対策委員会
- 27日(火) 厚生委員会
- 総務局

▽教職按手礼試験の希望者は、今月中に総務局へ申請書の提出をお願いします。なお、不明な点については、各地域担当ブロック・アドバイザーにご相談ください。
 ▽本部の会議室を使用される場合

担当者の負担軽減のため、「会議室使用申込書」(用紙・PDF・WORD)に必要事項を記入(入力)の上、ご提出ください。
 ■国内教会局

17日(土) 第2回カナ・フェロシツプ
 会場・中目黒教会

講師・大嶋重徳氏(KGK主事)・裕香氏ご夫妻
 テーマ「主に喜ばれる結婚をめざして〜学びと交わり〜」
 (女性牧師部)

13日(火) 15日(木) さふらん会リトリート
 26日(月) 女性牧師部会

■世界宣教局
 ▽葛田緑乃宣教師は、6月9日から一か月の予定で渡航し、奉仕を致します。健康が支えられて奉仕を果たせるようにお祈りください。
 ▽フィリピン宣教訪問団の申し込みが締め切られ、田辺寿雄団長を含めて、若い方々を中心に12名の参加です。準備が果たされ、意義深い宣教訪問団となりますように。
 ▽東京国際基督教会で奉仕を果たした葛田康毅、由理宣教師の契約が終了し、8月から年会にかけて巡回奉仕に当たります。巡回の申し込みも受け付け中で、葛田敬子師まで。

《IWF関係》
 ▽ウェスレアン教会世界宣教局アジア担当のカルンガル師は、その責任を終えられることになり、先月のIWF理事会で、送別の時が持たれました。シンガポール在住

のベン・ワード師がアジアの担当者として奉仕を継続されます。
 ▽アンドレア宣教師は、6月6日から10か月の予定で米国に戻られます。アメリカでの巡回の奉仕が祝されますように。

■教育局 (会議)

1日(火) 生涯学習課会議 (とにキャン)
 ◇第10回全国中高生とにキャン
 日程・8月8日(火) 11日(金)
 会場・聖山高原キャンプ場
 講師・大島重徳師(KGK主事)
 テーマ「変わりたい Revolution」

■青年部関連

今年、ユースミッションを予定しています。派遣や受け入れを希望される教会、教区などがありましたら、別送の用紙にてお申し込みください。申込締切は6月27日。
 《JEA関係》
 ▽第32回JEA総会
 日程・6月5日(月) 7日(水)
 会場・ホテル コンコルド浜松
 IGMからは代議員5名、田中進、植木英次、内山勝、葛田直毅、若上祝仁各師を派遣します。
 (女性委員会主催)
 「心のオアシスリトリート」
 日程・6月26日(月) 28日(水)
 会場・マホロバ・マインズ三浦
 講師・神津喜代子師
 テーマ「聖書の女性たち…そのぬくもりと優しさに寄り添って」
 《JHA関係》
 ▽第24回東海聖会

発行人 藤本 満 編集者 北田直人
 発行所 東京都千代田区神田駿河台一〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部

日程・6月24日(土) 25日(日)
 講師・小坂嘉嗣師
 《JEF関係》
 ▽第50回JEF総会・大阪大会
 日程・6月18日(日) 20日(火)
 会場・聖会I 日本イエス・キリスト教団放牧教会、聖会II 大阪リバーサイドホテル
 テーマ「主の力あるわざを、広く伝えるために」
 講師・聖会I 川原崎晃師
 聖会II 古川修二師
 セミナー 川邨裕明神父
 IGMからは代議員5名、矢木良雄、北田直人、南場安正、双森文昭、葛田聡毅各師を派遣します。また神学校関係者懇談会に河村從彦院長が出席します。
 18、19日夜6時半からの聖会はどなたでも参加できます。ぜひご出席ください。
 ▽JEFでは、関係諸団体の引退牧師に説教の奉仕を依頼することができるよう、協力し合っています。もし依頼がありましたら、可能な範囲でご協力ください。
 ■聖宣神学院
 ▽信徒土曜講座が開講
 これから開講になる講座は今からのお申込みも可能です。
 【春学期】
 ●文化がわかると見えてくる? (河村從彦先生) 6月24日開講・6回コース
 【秋学期】
 ●信徒として教会に仕える(田中進先生) 10月28日開講・4回コース

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇〇CCビル イムマヌエル綜合伝道団本部
 新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込) 郵便振替 001107133609

消息報告



●続・聖書読解法(河村從彦先生) 12月2日開講・4回コース
 ▽神学院祈り会
 6月6日(火)午後6時・本部会議室で。
 ▽後援会関係
 各教会の「世話人」推薦にご協力を願います。
 ■出版事業部 (会議) (日程が変更されました)
 2日(金) 出版事業部常勤部会
 出版に関する要望がありましたら、文書にてお寄せください。部会にて、検討させていただきます。

▼黒川哲牧師(新潟)のお父様、黒川親嗣兄(秋田教会員)が5月3日に召天され、5日(火)に葬儀が執り行われました。ご遺族に上よりのお慰めをお祈りください。
 eラーニングのご案内



7/11(火)開講【共に読み学ぶ宗教改革】
 6月5日受付開始、HPのフォームからどうぞ
 HPのURLは、http://grace-online.jp/